

# 分布図情報



## 「世界図」

メルラ作 17世紀 32.0×52.0cm 銅版手彩色

(収蔵資料展示「古地図の世界—外国図—」より)

(山下和正氏蔵)

16、17世紀の地理観をよく表している世界図です。東西半球に広く緑色で描かれている「MAGALLANICA」がそれです。

ギリシャ人は、地中海からアジアにまたがる北半球に対して、南半球にも広大な大陸があると想像していました。特に、1521年にマゼランがマゼラン海峡を通過したとき、この海峡の南にあったフェゴ島を南方大陸の一角をなす地域と考えて、彼の名に因んで「Magallanica」と命名されました。

東半球の北東（右上）に日本が描かれていますが、当時の日本のもう一つの形として知られていた「エビ型日本図」も図の右上端に描かれています。西半球の大半に南北アメリカが広がっていますが、コロンブスがアメリカ大陸を発見したのが15世紀末（1492年）ですので、わずか百数十年の間にこれだけの地図が描かれるようになったことにより、その当時の地理的関心の強さをうかがうことができます。

